

1. 開催日時：2025年6月2日（月）13時00分～15時00分

2. 開催場所：ちゅうぎん駅前ビル 4階会議室

3. 出席者：現地参加 32名、オンライン参加 29名、

講師：2名、事務局：16名 計79名

4. 講演内容

- ・持続可能な社会の実現に向けた“個人”の重要性と企業価値との関係性
N T Tコミュニケーションズ株式会社／宮田 吉朗
- ・カーボンフットプリント起点の価値創造に向けて
国立大学法人岡山大学／船倉 隆央
- ・脱炭素に向けた補助事業等の紹介
- ・C O 2 排出量算定ツールの紹介
- ・C O 2 排出量算定ツールの体験会（現地参加のみ）

（敬称略）

5. 配布資料

- 資料1 令和7年度ゼロカーボン研究会概要と第1回研究会について
資料2 持続可能な社会の実現に向けた“個人”の重要性と企業価値との関係性
資料3 カーボンフットプリント起点の価値創造に向けて
資料4 脱炭素に向けた補助事業等の紹介
資料5 C O 2 排出量算定ツールの紹介
（参考）令和7年度岡山市スマートエネルギー導入促進補助事業

6. 議題

- 1) 本日第1回研究会の概要とテーマについて
研究会の概要と第1回のテーマについて事務局より説明。
- 2) 持続可能な社会の実現に向けた“個人”の重要性と企業価値との関係性について
講演後、下記の通り質疑応答を行った。
 - 質疑応答
事務局：従業員が環境を意識することによって生まれた社内の変化や効果について、具体的な事例があれば教えてください。
宮 田：もともと従業員に環境への意識はありましたが、「何から始めればよいかわからない」「環境について話し合う機会があまりない」といった点がありました。社内で環境に関する取り組みを行うことで、環境について話し合う・交流する場を作れたこと自体が効果的であり、一定の成果があったと感じています。
- 3) カーボンフットプリント起点の価値創造に向けてについて
講演後、下記の通り質疑応答を行った。
 - 質疑応答
参加者：素材ごとのC O 2 排出量の算出に関して、これはどこかに公表されているのか？また、会社でやろうとすると、企業が独自にデータを収集・算出しているのか？どのような取り組みがあるのか知りたい。

船 倉：講演内で紹介した例では、一次データを活用しています。CO2 排出量の算出には複数のデータベースが存在しますが、第三者認証を取得しているケースは少ないです。理由としては、取引先との情報共有の目的であれば第三者認証は必須ではないためです。消費者向け（BtoC）に販売する場合は、正確な算定と認証が求められますが、企業間取引（BtoB）の場合は簡易的な算定でも十分な場合があります。

参加者：ボトルネックを把握する目的で算定する場合、必ずしも詳細なデータが必要ではないということか。

船 倉：その通りです。

4) CO2 排出量算定ツールの体験会（現地参加のみ）

体験会には事業会社 7 社、大学 1 校、自治体 3 つで合計 15 名が参加。具体的な入力方法や入力後の見え方、活用方法について説明。

以上